

特集「発達障害のある大学生への修学・就職支援」について

松川 敏道¹ 田中 敦士²
(コーディネーター)

大学等に在籍する障害のある学生数は年々増加し、近年は特に発達障害のある学生数の増加が顕著である。大学等における発達障害のある学生への支援は、日本学生支援機構による実態調査⁽¹⁾の障害区分に「発達障害」を組み入れた平成18年前後から課題になっていたところであるが、修学・就職支援とともに発達障害学生に対する適切な支援のあり方は全国的にも模索が続いている。

本学は、全国的にも比較的早い段階から障害学生支援に取り組み、現在は日本学生支援機構の障害学生修学支援ネットワーク拠点校として、各大学からの相談に応じる役割を担っている。しかし本学においても、多様なニーズを抱える発達障害やその疑いのある学生に対しては日々試行錯誤しながら対応しているのが現状である。とりわけ就職支援については、学生の個別支援という点においても、学内外の関係部署・機関との連携という点においても多くの課題がある。

一方、本学は大学ブランド事業の一環として、2019年に札幌学院大学が大切にしている中核的価値を「ブランドプロミス」として言語化した。すなわち「多様な価値観を持った人々と出会える環境や一人ひとりに合った成長機会を提供し、“自分を見つけ、らしさを磨き、社会に生きる”力を育む」である。これは、建学の精神を現代流にアレンジしたものであり、障害学生支援の理念とも通底する。しかし、発達障害のある学生たちへの今の支援状況を考えると、このブランドプロミスに応えることができているかといえばまったく心もとない。あらためてブランドプロミスが意味することを捉え直し、それを具体化するためにも、本学が抱える課題を解決していかなければならないとあらためて強く再認識するところである。

このようなことを背景に、2019年度、田中敦士をプロジェクトリーダーとして学長裁量経費による「発達障がいのある学生への教育支援事業」を実施した。事業のねらいは、(1)発達障がいのある学生に対する修学・就職支援で道内外の先進的な大学とその連携機関、事業所等を訪問しノウハウを蓄積する、(2)今後の支援のあり方に向けた議論の機会を提供する、である。事業の成果報告は、2020年9月2日に「令和2年度発達障がいのある学生への教育支援FD/SD研究会、ブランドプロミスの方向性に我々是对応できるのか——個性的な学生たちを受け入れ・教育し・送り出すために必要なことを考える——」として行った。

本紀要では、さらに「発達障がいのある学生への教育支援事業」の成果の一環として、訪問調査の結果、及び「令和2年度発達障がいのある学生への教育支援FD/SD研究会」の結果を報告するものである。各報告における論点・指摘等は各執筆者の責任によるものとし、また障害等の表記は統一せず各執筆者の判断にゆだねている。

これらの報告が、今後の本学のより良い障害学生支援体制の構築につながることを期待するものである。

キーワード：発達障害、就職支援、ブランドプロミス

¹ 札幌学院大学 人文学部人間科学科；matsukaw@sgu.ac.jp

² 札幌学院大学 人文学部人間科学科；atanaka@sgu.ac.jp

注釈

- (1) 日本学生支援機構が平成17年度より年度毎に行っている「障害のある学生の修学支援に関する実態調査」であり、大学等における障害学生支援の現状や課題を明らかにし、各大学等における障害学生支援の参考資料として提供することを目的としている。

On the Special Topic “Study and Employment Support for College Students with Developmental Disabilities”

Toshimichi MATSUKAWA¹

and

Atsushi TANAKA²

Abstract

We conducted the research project to provide assistance in studying to the students with developmental disabilities, utilizing the special budget solely secured by President of our university in 2019. The purpose of this project is (1) to accumulate the know-how with regard to how to most efficiently assist the students with developmental disabilities with their study by visiting other colleges and universities that include their cooperative organizations in this research field located both inside and outside of Hokkaido and (2) to provide the opportunities to set up the discussions as to how we should provide the future assistance to them most efficiently. We as the FD/SD research group plan to present the outcome of our visit to the colleges and universities mentioned above in 2020 and plan to present the research result of this project.

Keywords: Developmental Disabilities, Employment Assistance and Promise for Improved Assistance.

¹Department of Human Sciences, Sapporo Gakuin University; matsukaw@sgu.ac.jp.

²Department of Human Sciences, Sapporo Gakuin University; atanaka@sgu.ac.jp.

